

## 第 46 回東京モーターショー ボッシュ、「PACE」で新時代のモビリティを形成 自動化、電動化、ネットワーク化に加えパーソナライズ化に注力

2019 年 10 月 24 日  
C/CGR-JP-2019-19

- ▶ 日本市場でも、電動二輪車に必要なコンポーネントを網羅した「オールインワン 48V センtralドライブユニット」の提供が可能に
- ▶ 48V マイルドハイブリッドシステムを搭載した自動車が、2020 年初頭に日本の自動車メーカーから販売予定
- ▶ 関東の高速道路で Road Signature のデータ取得を開始

東京 –ボッシュは第 46 回東京モーターショーにおいて、排気ガスのない、より安全で魅力的なモビリティの実現に向けた様々な製品と技術を展示します。10 月 24 日に会場にて実施した記者会見では、ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバーでありモビリティソリューションズ事業セクターを統括する取締役のシュテファン・ハルトウングと、ロバート・ボッシュ GmbH 取締役会メンバーのマルクス・ハインより、ボッシュが進める電動化、自動化、ネットワーク化に関する概要を説明した後、今後はパーソナライズ化を含めた「PACE: Personalized(パーソナライズ化)、Automated(自動化)、Connected(ネットワーク化)、Electrified(電動化)」を通じて、ソリューションを展開していくことが発表されました。

### **モビリティソリューションズ事業は堅調に推移**

ボッシュのモビリティ事業は、2019 年もグローバルにおける自動車生産台数の成長率を上回る業績で推移しています。2019 年は、グローバルでの自動車の生産台数が 5%減の約 9,300 万台に落ち込むものの、モビリティソリューションズ事業セクターの売上高は、前年をわずかに下回る水準にとどまる見通しです。一方で、上半期を好調な業績で終えた日本においては、下半期にグローバル市場の下降トレンドの影響を受けるものの、2019 年の第三者連結売上高は昨年度を上回る見込みです。

### **排気ガスのない(Emission-free)モビリティに向け幅広いポートフォリオを展開**

モビリティの変革が市場に課題をもたらす一方で、ボッシュではさらなる変革と成長機会が存在していると捉えています。ボッシュでは年間 4 億ユーロを排気ガスのないモビリティに投資し、技術的にも商業的にも電動化において市場を牽引しています。2020

年には、e モビリティにおける売上高は 10 億ユーロを突破し、2025 年には目標売上高としている 50 億ユーロを上回る見通しです。

ポッシュの二輪車における電動化システムのポートフォリオはリチウムイオンバッテリー、ディスプレイ、コントロールユニット、ドライブユニット、安全システム (ABS: アンチロックブレーキ システム) 他を網羅し、電動二輪車に必要なすべての主要コンポーネントを統合した電動化システム「48V センtralドライブ システム」として提供可能です。この 48V センtralドライブ システムは日本での提供も可能で、既にドイツ・Govecs、スペイン・NUUK、フランス・Peugeot にも採用されています。記者会見でシュテファン・ハルトウングは、「日本でも、国内における電動二輪車の交換式バッテリーおよびバッテリー交換システムの標準化を目指すコンソーシアムが立ち上がるなど、電動二輪車の普及に向けた動きが活発化しています。ポッシュの 48V センtralドライブ システムが日本の電動二輪車市場にも貢献することを期待しています」と述べています。

ポッシュは電動化を実現する主なソリューションとして、48V マイルドハイブリッドシステムと eAxle (イーアクスル) を提供しています。48V マイルドハイブリッドシステムは、最大 15% の燃費向上を実現しながら、フルハイブリッドよりも低コスト、サイズもコンパクトで搭載しやすいという点から、日本の自動車メーカーからも高い関心が寄せられています。実際に、2020 年初頭に日本の自動車メーカーから販売されるモデルのひとつに、当社の 48V マイルドハイブリッドシステムが搭載される予定です。また、2020 年には、コンパクトカーからスポーツカー、小型配送車両に至るまでの幅広い車両への応用が可能なパワートレイン eAxle を搭載した自動車が、中国市場に登場する予定です。

さらにポッシュは現在、燃料電池パワートレインの商業化に向け、パワーセル社からのライセンス提供を受けた市場で最高の出力密度を誇るスタックを基盤に、ポッシュ・スタックの製造に向けた準備を進めています。

### **交通事故のないモビリティの実現に向け、自動化ソリューションの精度向上を追求**

ポッシュは交通事故のないモビリティの実現を目指し、ドライバーアシスタンスシステムや自動バレーパーキング技術、正確な車両位置の把握などの、より安全な自動運転を遂行するソリューションの開発を進めています。

自動バレーパーキング技術については今年 7 月、ポッシュはダイムラーとシュトゥットガルトにあるメルセデス・ベンツ博物館に設置した自動バレーパーキングについて、世界初となる自動運転のレベル 4 にあたるシステムとして承認を取得しています。記者会見でハルトウングは、「完全自動運転よりも先に、自動バレーパーキングが実用化されるでしょう」と述べています。

また、自動運転の実現には、車両が正確な自車位置を把握するための自車位置推定技術が必要です。ポッシュは日本において 2017 年より、車載ビデオカメラおよびレーダーを使用した自車位置推定技術 Road Signature の開発に取り組んでいます。また、2019 年 10 月からは東名高速道路や中央自動車道など関東の高速道路でデータの取得を開始しており、2020 年度内に自動運転用高精度 3D マップに統合可能な関東地方のマップ用データを完成させる予定です。

## **ネットワーク化したモビリティ サービスのプロバイダーとして市場をけん引**

ポッシュでは、2025年には世界で4.7億もの車両がネットワーク化されると予想していますが、ポッシュほど、ハードウェア、センサー、ソフトウェア、サービス、そしてAIなどのIoT領域において経験と専門的知識を有したグローバル企業はありません。ポッシュのネットワーク化を代表するソリューションとして、「パーフェクトリー キーレス」が挙げられます。スマートフォンと車両が通信し、実際のキーなしでドアのロック・アンロックとエンジンの始動を可能にするこのソリューションは、スマートフォンでキーのやり取りができるという利便性を有しながら、従来のキーレスエントリーシステムでは達成できなかった安全性までも担保します。

## **パーソナライズ化を加えた“PACE”で新時代のモビリティを形成**

近年、人々の自動車に対する意識が変わり、車が決して第一優先ではない人々もいます。ライドシェアやインターモーダル、ライドヘイリングなど、様々なサービスが登場しており、個人が自身のニーズに合わせて移動手段を選択できる社会へと変化しています。

ポッシュでは既に、個々人に合わせた移動をサポートする電動スクーターのシェアリングサービス「COUP」や従業員の乗り合いサービス「SPLT」などの移動サービスを展開しています。また、中国のDiDiに提供しているバッテリーマネジメントのクラウドサービス「バッテリー・イン・ザ・クラウド」は、バッテリーのパフォーマンス向上や寿命延長をもたらし、ひいては各自動車の航続距離の延長を可能とします。なお、バッテリー・イン・ザ・クラウドは、日本でも現在、自動車メーカーやモビリティサービスプロバイダーに対して導入や実証実験の提案を始めています。このようなイノベーションを通じて、ポッシュはドライバーや都市、環境にかかる負荷を軽減しながら、パーソナライズなサービスを提供しています。

マルクス・ハインは次のように語り、記者会見を締めくくりました。「ポッシュは創業以来、Invented for life というコーポレートスローガンにのっとり、人々の生活や社会を豊かにするソリューションの提供に注力してきました。ポッシュは今後、従来から注力してきた Automated, Connected, Electrification という3つのエレメントに Personalized を加えた PACE で、新時代におけるモビリティを形作ってまいります。」

### **報道関係対応窓口：**

角谷 清彦

古市 愛子

電話：03-5485-3393

### **世界のポッシュ・グループ概要**

モビリティソリューションズは、ポッシュ・グループ最大の事業セクターです。2018年の売上高は476億ユーロで、総売上高の61%を占めています。モビリティソリューションズの売上により、ポッシュ・グループはリーディングサプライヤーの地位を確立しています。モビリティソリューションズ事業は、Accident-free (交通事故のない)、Emission-free (排出ガスのない)、魅力的なモビリティを目指し、自動化、電動化、ネットワーク化の領域においてグループの専門知識を統合させ、お客様にトータルソリューションを提供します。その事業領域は主に、内燃機関の燃料噴射テクノロジー／パワートレイン周辺機器、パワートレイン電動化のさまざまなソリューション、車載向け安全システム、ドライバーアシスタンスシステム／自動化機能、ユーザーフレンドリーなインフォテインメントやVehicle-to-Vehicle (車車間)およびVehicle-to-Infrastructure (路車間)通信、オートモーティブアフターマーケット向けのリペ

アショップコンセプト／テクノロジー／サービスなどです。さらにボッシュは、電気駆動マネジメントや横滑り防止装置ESC (エレクトロニック スタビリティ コントロール)、ディーゼル用コモンレールシステムなどの自動車の重要な革新技術を生み出してきました。

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2018年の従業員数は約41万人(2018年12月31日現在)、決算報告での売上高は785億ユーロ(約10兆円\*)を計上しています。現在、事業はモビリティソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュはIoTテクノロジーのリーディングカンパニーとして、スマートホーム、スマートシティ、コネクテッドモビリティ、さらにコネクテッドインダストリーに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループはコネクテッドドライブに向けたイノベーションの提供を戦略的な目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社460社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界130の拠点で約6万8,700人の従業員が研究開発に携わっています。

\*2018年の為替平均レート:1ユーロ=130.92534円

さらに詳しい情報は以下を参照してください。

[www.bosch.com](http://www.bosch.com) ボッシュ・グローバル・ウェブサイト (英語)

[www.bosch-press.com](http://www.bosch-press.com) ボッシュ・メディア・サービス (英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター (ドイツ語)

[www.bosch.co.jp/](http://www.bosch.co.jp/) ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト (日本語)

<https://twitter.com/Boschjapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター (日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック (日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式YouTube (日本語)